

## CEMA 40 周年総会 会長あいさつ

2016 年 6 月 24 日

CEMA 7 代目会長 木下真生

本日 CEMA 創立 40 周年という大きな節目のよき日を迎えひと言ご挨拶申し上げます。

4 年前、前会長の里見様よりのご指名により、また理事会のご承認により CEMA 第 7 代会長を囿らずも引き受けさせていただき、何もかも手探り状態でこの 4 年間に走らせていただきました。全く頼りない走りであったとは思いますが周囲の皆様の温かいサポートのお陰で何とか無事に完走することができました。改めて全ての関係者の皆様へ感謝の意を表させていただきます。ありがとうございました。

さて、先ほどの第 40 回定時総会におきまして第 8 代目 CEMA 会長にアネスト岩田株社長の壺田貴弘氏が指名、満場一致で選任されたことをご報告申し上げます。8 代目 CEMA 会長としては他にも複数お願いをしたい方々もいらっしゃいましたが、皆様それぞれご事情があり結局壺田社長に大変ご無理を申し上げ最終的には快く引き受けていただくことになったという次第であります。その明るいお人柄により CEMA をリードしていただき CEMA の益々の活性化につなげていただけるものと大いに期待いたしております。

さて、ここで私としての締めくくりとして長いようで短く、また短いようで長かったこの 4 年間に簡単に総括させていただきたいと思っております。この 4 年間、常に頭にあったのは“CEMA とは”という基本命題に対する納得できる答え探しであったと思っております。そしてその結果たどりついた私なりの答えは大きくは次の 3 点というものでした。もちろんこれは私の“CEMA とは”の命題に対する答えであり、皆様方はそれぞれにまた異なる意見や見解を持たれていることと思っております。それを承知で敢えて申し上げます。

先ず第 1 に、

CEMA とは、塗装産業に何らかの関わりを持つ企業や人々が集まり、お互いをよく知り合い親睦を図り、知見を広め情報交換ができる得難い場を提供する団体である、ということではないかと思っております。つまり角度を変えてみた場合“もし CEMA 無かりせば”例えば今日のこの日の集まりのようなものもないわけで、お互いに話をする機会や知り合う機会もない。そう考えると CEMA が有意義な場を提供しているという見方が理解できるのではないかということです。

第 2 としては、

CEMA はその組織を通じ他の団体や公的機関、学術団体などとの交渉を持ち、CEMA ならではの情報の取りまとめ、それら情報の発信ならびに他団体からの情報の受信を行い、それらを通して社会の進歩・発展に役立つことを志向する団体である、ということです。これもこれもやはり角度を変えて“もし CEMA がなかったら”という見方をした場合、有益・有用な情報の発信・受信もできないわけで社会への貢献や役立

ちは無くなるということになります。

第3としては、

CEMA は塗装関連企業の任意団体ではあるが、そこに属する企業がハード、ソフト両面で常にベター、ベストな進化を求めて切砥琢磨し機器の開発、改善、改良を希求し、また塗装技術的にも日々ベター、ベストを目指して努力するというベースを提供する母体となっている、ということであります。これらの意識が結果的には業界として、Less Pollution、Less Energy Consumption、Better Surface Making という塗装の基本事項を恒常的に追究する原動力になっている、という認識であります。

これ等大きく3点が私がこの4年間で得た“CEMA とは”という命題に対する私なりの答えです。

さて、それではこれらの認識をもとに私の CEMA 会長としての4年間の集大成の締めくくりとして最後に皆様にお伝えしたいひと言があります。本日、小泉元首相がこの CEMA のために講演してくださいました。テーマは『日本の歩むべき道』かつて日本をリードされていた方ですからお話も非常に示唆に富む有益なものであったと思います。改めて小泉元首相にお礼を申し上げたいと思います。その小泉首相は『ひと言』に様々な考えを集約して非常にインパクトあるアピールをされるのが上手な方でした(今もそうですが)、それに倣ったわけではないのですが私もひと言にこの4年間、もっと言うならばこの20年間の塗装産業に関わった結果の思いを全て詰め込んで皆様にお伝えさせていただきたいと思います。

#### 『塗装なくして物づくりなし』

この一言に尽きる思っています。世の中の我々の周りにある『物』にはほぼ100%色が付いています。つまり塗装が施されている。世の中の認識は色が付いているのが当たり前。ただ殆どの人がその色が塗装という工程を経て付けられるということをご存じない。もっと啓蒙活動を活発に行い塗装の果たしている大きな役割を他の関連団体とも協力しながら世の中に知ってもらおう努力が必要ではないかと思えます。

#### 『塗装なくして物づくりなし』

このひと言を是非噛みしめ、自分たちの仕事遂行上のプライドとしていつていただきたいと思います。

ということで、本日はかくも多くのVIP、ご来賓の皆様においでいただいております。塗装関連各界の重鎮の皆様です。本日のご参加、ご列席に対し心より御礼申し上げます。今後ともCEMAと共に塗装産業を是非盛り上げていつていただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。また本日も報道関係の皆様多数おいでいただいております。報道は暗い夜道を走る車のヘッドライトのような役割を担っていただいていると思っています。是非今後とも本業界の行き先を明るく照らしていただきたいと思います。また塗装技術の野本編集長にはASTECC開催運営にあたり特にお骨折りお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また会員会社の皆様、本日遠方よりご参加の会社様も多く大変にありがたく感謝いたしております。本日は海外(香港)からもご参加いただきました。Stephen Cheung さんです。ちょっとご起立して皆様にひと言ご挨拶願います。また、本日はOBの方も特別参加をいただいております。

かつてはCEMAでこの方の名前を聞くと泣く子も黙ると言われた程のにらみが効いていたアネスト岩田

の菅原氏と、CEMAの仕事なら徹夜もいとわれないといわれる程熱心にやっていただいた新井氏です。どうぞ起立して皆さんにひと言ご挨拶願います。OB お二方に感謝の意をこめて大きな拍手をいただきたいと思います。このような熱心なOBの皆様が現在のCEMAを作ってくださった訳です。ありがとうございます。この意味でも40年前1976年にCEMAを発足させるために一致団結しこのように有意なる団体を我々に授けてくださった設立発起人の皆様、アネスト岩田の岩田一也様、旭サナックの甘利祐三様、そして松尾産業の松尾一郎様に改めてCEMA全員を代表して御礼と敬意を表させていただきたいと思います。また本日はいい機会ですのでCEMAを実務の面で牽引してくださる各部会の皆さんもご紹介したいと思います。先ず運営企画委員会は委員長の平野専務理事、副委員長の三好氏と山崎氏。技術部会、部会長の山崎氏、副部会長の青柳氏と樋川氏、そして技術部会の皆様、ご起立ください。次に設備部会、部会長の武田氏、副部会長の石丸氏。次に機器部会、部会長の中島氏、久間氏、そして部員の皆様。次にAutomotive協議会、座長の片山氏、副座長の石田氏。次にもの作り懇談会、部会長の木下、副部会長の内山氏。シンポジウム委員会、委員長の多田氏、副委員長の魚谷氏、片山氏、中野氏、そして委員の皆様。特に魚谷氏は紅一点でご活躍されています。またCEMAの環境分科会を母体として今や大きく育ってきたCEMA姉妹団体のIPCO(国際工業塗装高度化推進会議)の中核を担って活動・活躍されている窪井氏をご紹介します。これらの皆様の日々の努力と活躍でCEMAは前進できています。この4年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。あと、特別にご紹介したいのがCEMAの会計システムをネットバンキングとリンクさせた山下財務会計コントローラ、また共に頑張ってくださった有馬事務局長。またCEMAのホームページを根本から一新した立役者の久間氏、木村氏、小野氏、さらに最少の費用でホームページを技術的に構築くださったアムリスの横山氏にも感謝申し上げます。また今回の40周年記念誌発刊にあたり構想作りに関わっていただいた武田氏、三好氏、その編集を担った久間氏、江口氏、全体構成の調整や原稿・写真の提供に大活躍した平野専務理事、デザインをご提供いただいた小野氏。塗装用語事典の編纂に当たっては島田氏、山崎氏、および技術部会の各員の方々など、皆様の大変な汗と苦勞の結果これらの記念誌発刊が実現したことをお知らせし改めて御礼申し上げます。

大変長くなりましたが最後にSpecial Special Thanksを申し上げて私のご挨拶を締めくくらせていただきます。もちろん理事の皆様に対しては当然ですが、やはりこの4年間様々な形で支えてくださったのは専務理事の平野さんです。この支え無くしては私の4年間は何もなしえなかったと思います。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

これからもこの業界に身を置く間はCEMAに何らかの形で関与させていただくつもりです。まさに熱意、情熱、誠意、これ等を強く持ってCEMAの仕事に取り組んでくださったCEMA執行部全ての皆様へ心底より御礼申し上げます。皆様と共に仕事をさせていただけたこの4年間、私は大変に幸せでした。CEMAおよび本日ご来場の各団体、企業様、そして皆さまひとり一人の末永きご多幸を祈ってご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。